



TITLE:

京大広報 No. 347

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 347. 京大広報 1988, 347: 433-436

ISSUE DATE:

1988-03-01

URL:

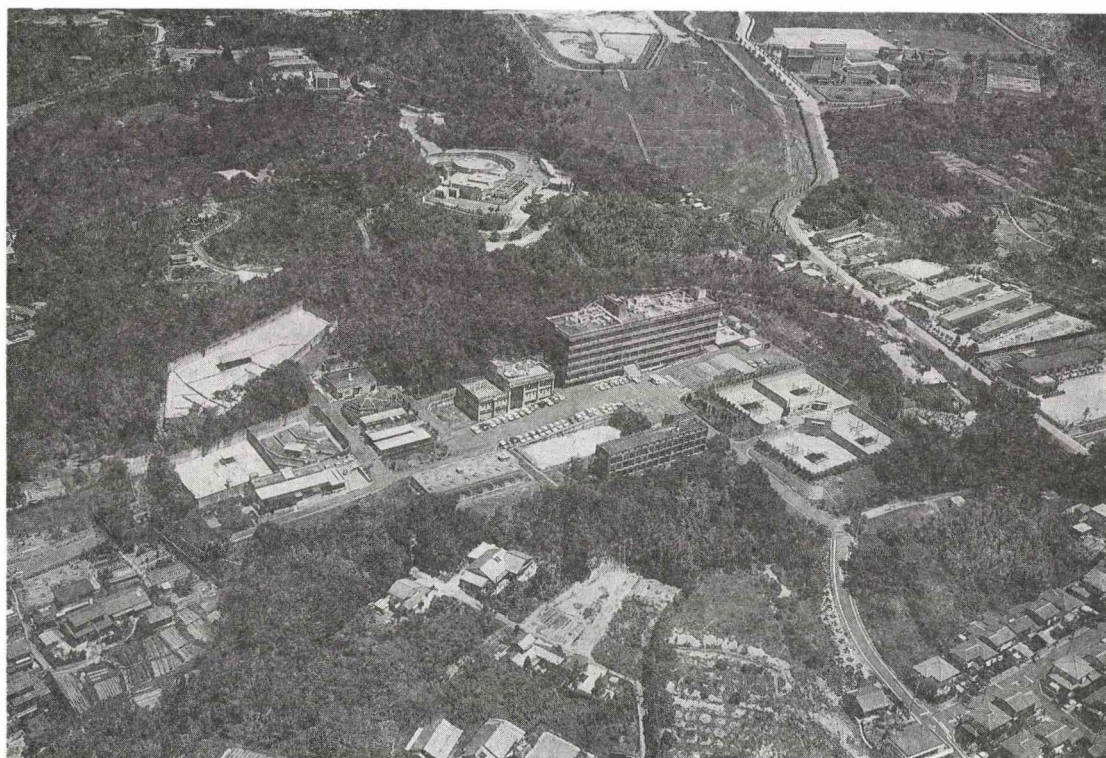
<http://hdl.handle.net/2433/209332>

RIGHT:

京大広報

No. 347

京都大学広報委員会



霊長類研究所の全景（愛知県犬山市）

—関連記事本文435ページ—

目 次

昭和63年度入学者選抜学力試験

第1段階選抜合格者の決定..... 434

昭和63年度医療技術短期大学部

入学志願者状況..... 434

＜紹介＞

霊長類研究所における実験動物の取り扱い

—サル委員会の活動—..... 435

白浜海の家の利用..... 436

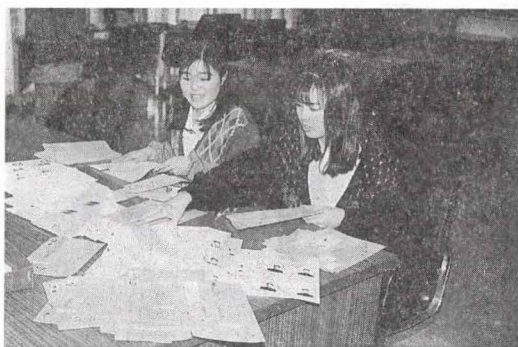
計 報..... 436

＜大学の動き＞

昭和63年度入学者選抜学力試験 第1段階選抜合格者の決定

昭和63年度入学者選抜学力試験の第1段階選抜合格者が決定され、2月18日(木)志願者に通知された。学部別の合格者数は次表のとおりである。

また、第2次学力検査の試験場は同表に記載のとおりである。最終入学者選抜合格者の発表は、3月19日(土)午後、学部ごとに行われる予定である。



郵送された出願書類の開封(工学部)

学 部	募 集 人 員	第1段階選抜合格者数	第2次学力検査試験場
文 学 部	220人	699人	
A 日 程	20	100	文 学 部
B 日 程	200	599	文・法・経済・工学部
教 育 学 部	60	211	
A 日 程	20	82	教 養 部
B 日 程	40	129	(A日程・B日程とも)
法 学 部	400	974	関 西 文 理 学 院
経 済 学 部	240	1,123	
A 日 程	50	283	法 学 部・経 済 学 部
B 日 程	190	840	(A日程・B日程とも)
理 学 部	306	2,063	教 養 部
医 学 部	120	531	医 学 部
薬 学 部	80	283	薬 学 部
工 学 部	1,030	3,778	文・法・経済・工学部, 教養部
農 学 部	325	1,216	農 学 部
計	2,781	10,878	

(注) 法学部、経済学部の第1段階選抜合格者数には、「外国学校出身者のための選考試験」第1次選考合格者の38名(法学部)、35名(経済学部B日程)を含む。

昭和63年度医療技術短期大学部 入学志願者状況

昭和63年度医療技術短期大学部入学試験は、3月4日(金)と5日(土)の両日に実施されるが、入学願書の受付が2月1日(月)から8日(月)まで行われた。

学科別の入学志願者数は、次表のとおりである。

学 科	募集人員	志願者数	倍 率
看 護 学 科	80人	271人	3.4
衛 生 技 術 学 科	40	336	8.4
理 学 療 法 学 科	20	165	8.3
作 業 療 法 学 科	20	83	4.2
計	160	855	5.3

(医療技術短期大学部)

<紹 介>

霊長類研究所における
実験動物の取り扱い

—サル委員会の活動—

この2, 3年, 実験動物の福祉に関する議論が盛んにマスコミでも取り上げられるようになってきた。また, 昨年5月, 文部省は国公立大学長等に対して, 動物実験に関する指針を自主的に定めることを求めた「動物実験に関する原則」(通知)を送付しており, これを受けて, 各大学で指針策定の動きが慌ただしくなっている。

霊長類研究所では, 1985年後半から1986年前半にかけての1年間, 動物福祉に関する所員の考え方を一変させる事件が起きた(注参照)。この事件以前にも, 当研究所では, 所内マニュアルとして「サル飼育提要」や「安全の手引」などを作って, 適切な飼育管理に努めるとともに, 研究所の全教官よりなる協議委員会の下に「サルの飼育と使用に関する委員会」(通称サル委員会)を置き, サルの入手・飼育管理・配分に関する基本方針の決定や, 実務を担当するサル類保健飼育施設と研究部門間の調整を行ってきた。しかし, この事件を契機に当研究所では, 1986年4月, 欧米にならって監視機構を備えた独自の「サル類の飼育管理および使用に関する指針」(以下「指針」)を策定した。その後, この「指針」は一部改正されて現在に至っているが, 策定後およそ2年たった今では, 当初の戸惑いもなくなり, 運営も非常に円滑になって来ている。そこで, 当研究所の「指針」とその監視機構であるサル委員会の活動を紹介したい。

まず, ここ数年の間に欧米諸国で改訂ないしは策定された指針が, いずれも人道的な飼育管理と部外者の参加を含む監視機構の強化を強く打ち出しているところに注目しなければならない。さらに上記の人道的な扱いの根拠として“それを否定する事実がない限り, 人間にとって苦痛をもたらすような扱いは動物にとっても苦痛であると判断

される”と, 明言していることである。つまり, 欧米諸国の指針の中心課題はいかに動物の苦痛を抹消ないし軽減するかであることに注意をする必要がある。

当研究所の「指針」は本学庶務部発行の「動物実験に関する資料集」に全文が掲載されているので重複は避けたい。一番大きな特徴は, 「指針」の円滑な実行とその実施状況を監視するために, サル委員会の権限を大幅に強化したことである。このサル委員会は実験系研究者1名, 非実験系研究者1名, 獣医師1名を含む5名の研究所の教官によって構成されている。委員会は毎月定期的に会合をもっているが, 緊急に審議すべきものについては随時会合を開いている。

委員会の主な活動は, 1) サルの繁殖及び導入計画の調整 これにはワシントン条約や各種国内法に対する合法性, 現地でのサルの生息状況, 将来の利用計画等の観点からの審議も含まれる。2) 研究者へのサルの配分や使用計画の調整 所内の研究者並びに共同利用研究員から提出された次年度のサル使用計画書(年間計約130件)について, 消耗個体数を最小限にするための多重利用の精神に照らして, 個々の申請に対する配分頭数を決める。多少ともサルの苦痛を伴う実験は, 実験に先立ち, 飼育条件・実験方法等を明記した特殊実験許可願を申請しなければならない(年間約110件)。委員会では, 「指針」に照らして実験の妥当性を評価し, 妥当であれば, 「指針」に沿った注意・変更をつけて実験を許可する。3) サルの適切な飼育と使用の監視 委員会は毎月1回サルの全飼育施設(約800頭)を巡回し, サルの健康状態, 飼育状況, 飼育環境などを点検する。改善項目があればそれを指摘し, 各飼育責任者に結果を報告する。これらの結果は, 協議委員会においても報告される。

以上のように, 当研究所では, 現在生きたサルを用いたすべての実験はサル委員会の審査を必要としている。しかし, このことは研究者にとってマイナスではなく, 逆にプラスの要因となってい

る。というのは、サル委員会の意図は研究者の企画している研究が、国際的に認められるレベルで遂行できるように、動物福祉のフィルターを通すことにあるからである。国際誌に投稿した原稿が動物福祉の観点から問題になった場合もサル委員会は研究者に代わって答える用意がある。

注) ことの発端は、1985年夏より当研究所で研修中のフランス人研究者が、実験用サルの待遇改善を求めてきたことに始まる。ちょうどその頃、米国の国立保健研究所(NIH)の「実験動物の飼育と使用の指針」が改訂され、政府の補助金を受けるすべての研究にその遵守が義務づ

けられた。そこで、当時のサル委員長を中心として欧米における動物福祉の現状に関する勉強会を始めた。この勉強会は同年12月に正式にガイドライン策定のための拡大サル委員会となった。しかし、望むような待遇改善がなかなか進まないのに業を煮やした当の研究者は、所員の承諾を得ずに撮影した何枚かの写真を添えて、フランスの一般向けの雑誌である“Geo”と“La vie des bêtes”や国際霊長類保護連盟などに記事を送った。それより約半年間、フランスやスイスなどのフランス語圏の国々より霊長類研究所あてに抗議の手紙が直接あるいは外交ルートを経て殺到した。この事件を契機に所員の動物福祉への関心はいやが上にも高まった。

(霊長類研究所)

白浜海の家の利用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、白浜海の家を下記のとおり通年開設しています。

この海の家は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏は、海水浴に最適のところです。

また、海の家のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた水族館があり、有料で公開されています。

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町
京都大学理学部附属瀬戸臨海

実験所構内

(交通機関)

J R紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行に乘車、終点で「臨海」行バスに乘換えて、「臨海」下車。

3. 開設期間 通年開設
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 35名
6. 所要経費 1人1泊使用料50円、ほかに食費等実費程度
7. 申込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話学内2574)に照会してください。

(学生部)

計 報

水科 篤郎(本学名誉教授・工学博士)

2月24日逝去、68歳。昭和17年本学工学部卒業。31年本学工学部教授就任、58年退官。その間文部省大学学術

局科学官(43年～45年)、原子エネルギー研究所長(47年～51年)併任。専門は化学工学。